



進路指導部通信

全学年版

Lighthouse #89 (2021 #28)

2021.12 発行

共立女子中学高等学校進路指導部

校内出張講義企画

年明けから少しずつ「校内出張講義」を企画しています!!

コロナ禍で「対面で大学を知る機会」は激減しています。オープンキャンパスはもちろんのこと、学年と進路指導部の協働企画である「キャンパスツアー」や伊藤忠 CTC などの企業でのワークショップ体験なども全く出来ていません。オンラインなどの大学説明会や体験講座などにはありますが、クオリア、つまり人の経験はデジタルでは還元出来ないものですから、特に若い感性を持った皆さんには、少しでも「対面」の経験を取り戻して欲しい。そう考え、中学3年生から高校2年生までの生徒の皆さんと高校3年生の進路決定者の皆さんを対象に各大学に「出前授業」「出張講義」をお願いしています。コロナの感染拡大の状況次第では、中止やオンラインになってしまうかも知れませんが、貴重な機会になると思いますので、是非積極的に活用して欲しいと思います。詳細については、来年の1月～6月に掛けて Classi や Google Classroom でご案内します。

※ コロナ禍ですので、先方のご都合で急遽中止やオンラインになることも十分あります。「対面」でどれだけ実現出来るかは未知数ですが、可能な限り「直に大学を知る機会」を創っていきますのでご理解下さい。

□ 既に決定している校内出張講義

① 1/27(木) 15:45 集合：16:00～17:30 東京薬科大学 免疫学教室 安達 禎之 (あだち よしゆき) 教授
「アレルギー研究の新展開 なぜ花粉症になってしまうの。新しい治療法はできるのでしょうか。」

花粉症とは、スギやヒノキなどの植物の花粉が原因となって、くしゃみ・鼻水などのアレルギー症状を起こす病気で、季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれます。花粉症は、日本人の3人に1人が罹っており、国民病ともいえるアレルギー疾患です。私たちの免疫システムは体に侵入した異物を見つけ一生懸命排除しようしますが、その働きが有害な反応となって現れることがあります。どんな仕組みでアレルギーが起こるのでしょうか。花粉症の人は、花粉の季節になったら、一生お薬を飲まなければならないのでしょうか。抗ヒスタミン薬に頼らない根本的な治療はできるのでしょうか。この講義では、免疫がどのような仕組みでアレルギーを起こすのかを解説し、最新のアレルギー治療法と将来、どんな治療法が開発されるのか、皆さんに紹介したいと思います。

② 3/9 (水) 15:00 集合：15:30～17:00 中央大学 中島美香准教授「情報法の世界へようこそ」

「近年、私たちの生活はITの進展によって便利なものとなりました。たとえば、スマートフォンで必要な情報を検索したり、インターネット通販で買い物をしたり、友達にはSNSで連絡をしたりすることができます。一

方で、こうした便利なサービスでの情報の取り扱いに関して、法律上の議論が行われています。情報法の世界をご紹介します。」

XTech (クロステック) という言葉がありますが、様々な分野がテクノロジーと結びついていく現代社会の中で、「法律」がどのように関わっていくのか? 今後非常に重要なテーマですので文系・理系を問わず広く参加して欲しいと思います。

③ 3/9 (水) 15:00 集合: 15:30~17:00 武蔵野美術大学 山本靖久教授

山本先生の研究テーマは「絵画-日本人の感性を活かした絵画空間の創造とその表層の質感表現について」です。http://profile.musabi.ac.jp/page/YAMAMOTO_Yasuhisa.html 本校の元教頭故中城先生ともご親交のあった先生です。貴重な機会ですので、絵画やデザインに興味のある生徒は是非参加してみてください。

④ 3/12 (土) 13:00~15:00 【オンライン】 東京大学・新領域創成科学研究科・先端生命科学専攻 医薬デザイン工学分野・山本一夫教授 「インフルエンザと糖」

「ヒトとニワトリの糖の形が似ているのは、長い間近くで暮らしていたからであり、だからこそ同じような病気にかかりやすい」こうした日常的な「何故」から研究に繋がるプロセスを中高生向けに東京大学の先生が解説をして下さいます。理系の人はもちろん、文系の生徒にも是非積極的に参加して欲しいです。

□ 現在検討をお願いしている大学: 一覧 (赤字は実施は決定)

東京工業大学・一橋大学・東京農工大・慶應義塾大学 (4月以降)・上智大学・東京理科大学
立教大学・明治大学・法政大学・青山学院大学・学習院大学
星薬科大学・成蹊大学・東京電機大学・北里大学・津田塾大学・東京女子大学・日本女子大学
芝浦工大・日本赤十字看護大学・多摩美術大学 等

※ 上記以外にも検討はお願いしていますが、オンライン授業継続の大学もあり、なかなかいい返事が貰えるとは限らない状況です。早稲田大学など既にお断りされた大学もあります。上記の大学の中で対面校内模擬授業が出来るのはごく一部かも知れませんが、実現に向けて企画を進めていきます。



Lighthouse #20 (2019年12月発行) 校内出張講義の記事を再掲載します。

2019年6月2日「一日東工大(東京工業大)生」(高校3年生担任 酒井教諭引率) <酒井教諭からのコメント>

他学年が宿泊行事を楽しんでいる6月上旬の日曜日、気心の知れた高校3年生生理系クラスから6名で、一日東工大生プログラムに参加してきました。このイベントは理系を目指す高校生のために開催されており、招待された学校しか参加することができない特別なものでした。主に女子校に声がかかっているようで、ホールに集まっているのはほとんどが女の子ばかりの150名ほど。またガイドを務めるのも東工大の女子学生の方だったため、とても和



やかな雰囲気でした。午前中は東京工業大学生命理工学院教授の近藤科江先生(この方も女性です)に『からだの中を光で診る～医療の未来研究』についてお話を伺い、お昼は学食で先輩方と一緒に楽しくお話しするチャンスを頂きました。受験に向けてのアドバイスや大学生活について詳しく伺えたようです。午後は実習『飛び出せ工学君!～振動を使って走る移動機械を創る!』があり、簡単なパーツから機械を手作りし、その移動速度について全体で競い合いました。移動機械といってもモーターに手足となる針金をつけて駆動するだけの簡易なものですが、それだけの組み立ての中に、足の先を曲げて安定度を増す、上体を低めて転びにくくするなど様々な工夫が可能です。試行錯誤しながら自分の納得できる形ができると、会場前方のレース場で実験してみることができます。全参加生徒によるレースの結果、勝ち抜いたのはなんと共立の生徒でした!すごい!講義型・体験型の両方のプログラムに参加でき、またキャンパス内の様子や施設についても知ることでできる大変充実したイベントでした。

2019年8月23日 東京農工大・キャンパスツアー (進路指導部 森山教諭引率・チューター高山さんご協力)

<森山教諭からのコメント>

あいにくの小雨の中でしたが、東京農工大のキャンパスツアーを無事に行うことが出来ました。大学の設定では、工学部・農学部と別々に企画されているキャンパスツアーですが、共立の生徒向けに一日で両学部が回れるようスケジュールリングをお願いしました。東小金井の工学部キャンパスでは、講義室を使って、農工大の歴史から現在の大学の研究についてのお話を聞きました。その後、工学部の学生によるキャンパスツアーで、研究室の設備や、工房、図書館の中を案内して頂きました。その後電車で移動して府中の農学部キャンパスへ。こちらでも学生のガイドによりキャンパスツアーをしていただきました。獣医学部の動物病院や農場、温室を見学。農学部では本校卒業生で現在チューターとして毎週来て頂いている高山さんも一緒に回って下さり、大学生活や入試についてお話を聞くことができました。農工大はキャンパスが広く、二つの学部を歩いて回るのは大変でしたが、得るものが多い一日だったと思います。



2019年10月23日 メディカルラボ小論文・面接実践講座 (進路指導部 森山教諭司会・鮫島教諭&高梨教諭参加)

医療系専門予備校のメディカル・ラボの名物講師可児良友氏による小論文講座と面接の心得指導、および模擬面接(高校2年生2名のボランティア)講座を実施しました。面接指導については、例年高校3年生所属の教員でこれまでも行ってきましたが、AOや一般推薦のみならず一般受験でも実施されるケースも想定して本年度より進路指導部、各部門・学年の主任の教員もスタッフとして加入して行っています。小論文指導についても、医療系に特化した予備校の持つ情報は非常に貴重なものでしたが、面接については基本的には就職の面接も含め、本質は変わりません。それは、「志望理由書・エントリーシート・小論文」といったものに書かれている情報と「面接を受ける志願者本人」がきちんと一致しているかどうかの確認です。この日の模擬面接でも、「文章として書かれた抽象的な体験や表現を、5W1Hで徹底的に掘り下げて質問される」ということが行われていましたが、これは上記の面接の目的をきちんと果たすためのものです。「医療ボランティアに参加しました」といった事実をいくら積み重ねても相手に伝わりません。自分にとってどういう意味のある体験だったのか、具体的にそこで誰と接して何を感じたのか。あらゆる学びを通して自分が何を得たのかを言語化することが出来なければ面接では立ち往生してしまいます。理系だから国語の勉強は手を抜く、普段同質性の高い集団内でSNSで軽い言葉でわかり合え



るコミュニケーションばかりしている、といった生活を送っていたら全く通用しないことはよく理解出来たと思います。

2019年11月19日 早稲田大学・理工学部出張授業 (進路指導部 森山教諭司会・鮫島教諭&高梨教諭参加)

早稲田大学先進理工学部教授古川行夫先生の「燃料電池」に関する出張授業には中学3年～高校2年生の多くの生徒が参加してくれました。文系の私が聴いていてもワクワクするお話でした。特に、「地球温暖化は、実験室で再現性を徹底的に追求するといったことが出来るような問題ではない。これは人類の存続をかけた重大な問題であり、エビデンス云々ではなく科学を超えて政治も含め全体で取り組むべき」という発信には感動した生徒も多かったのではないのでしょうか。「地球温暖化がサイエンスなのかどうか」については実は幅広い議論がありますが、先生は若者達へのメッセージとして、もっともっと実験を大切にしてほしいということをおっしゃっていました。「問い・仮説」から出発し、地道な検証のために「実験」を繰り返し「再現性」を追求する。科学者として必要な資質がどういうものなのかを感じてくれた生徒も多かったと思います。



Lighthouse #25 (2020年2月発行) 校内出張講義等の記事を再掲載します。

① 2019.12.7 立教大学公開講演会 池上彰客員教授「グローバル社会を生きる」

立教大学のご厚意で共立生を特別ご招待頂きました。池上彰さんは2016年より立教大学でリベラルアーツ教育を担当されています。90分間の講義を年間14回だったのですが、今年は100分講義を年間14回へ。TVで見る印象とは違って、非常に厳しいとのことで、「真面目に学習しない学生に単位は出さないが、立教大生はきちんとしているので20%程度しか単位を落とさない。」だそうです(笑)。



内容については、参加生徒のアンケートで詳しく分かるので簡単にだけ紹介すると、

「Global社会であるが、Global Standard などというものは存在しない。American Standard を Global Standard と考えている人が多いが、EU Standard をはじめ、それぞれの文化・文明の「内在的論理」を理解することこそ Global 社会を生きるために必要な姿勢。」といった内容でした。パワーポイントなど使わず...。あっと言う間の105分とその後30分の質疑応答。「いい質問ですね～」と言われたかったので挙手しようと思ったけど、若い子達の為の会だから我慢しました(共立生に手を挙げて欲しかったなあ。次回は是非)。

生徒アンケート

今回の企画に参加してみようと思った理由を書いて下さい。

- ・立教大学は志望校の視野に入れているため。
- ・海外情勢の知見を広げたいと思ったから。
- ・池上彰さんの講義を直接受けられるなんて、そうそうない経験だと思ったのだ、時間に余裕がある今だからこそ体験できることだと思い参加を決めました。また、**グローバル社会をどう生きるか**ということは、**これからの私たちの生活に直結することだ**と思いました。
- ・授業で鮫島先生がおすすめしており、興味をもちました。そして、ホームページの講演概要を読み、今日の国際情勢のニュースをどのように受け止めればいいのかを考えたり知ったりする良いきっかけになると思ったので

参加することを決めました。

・普段テレビで拝見している方を生でお話しを聞けるという貴重な機会を無駄にはしてはいけないと思い参加しました。また、普段話さないようなことも聞けるかと思い期待して行きました。

・テレビで何を見ようか迷ったときよく池上さんの番組が面白くてつけていたので、実際にお話を聞ける機会はそう無いし行ってみよう！と思い参加しました。「グローバル社会を生きる」というタイトルにも興味をひかれました。

今回の講演を聴いて感じたこと、考えたこと、印象に残ったことなど自由に書いて下さい。

・定期試験の勉強はいいや！という気持ちで参加したのですが、お話を聞いてみるとほぼ世界史の試験範囲だったなあと笑 歴史を学ぶ大切さを改めて感じました イギリスのEU離脱の選挙やトランプ大統領の当選などの話を聞いて、選挙に行かない人の影響力、私一人が行かなくても世の中は変わらない、なんて考えの危険さを改めて思い知りました 日本での外国人労働者の扱いについての話は池上さんと全く同意見で、お話が聞いて良かったです 日本での外国人を労働力としか見ない考え方は本当に嫌だなあと改めて思いました 池上さんが最後におっしゃっていた、偏見を捨てること、自分と考えが相入れなくても相手に対するリスペクトを忘れないこと、そしてできれば現地に行ってみよう、という言葉がとても心に残りました。

・途中までは話についていけたけど、経済の話とかはとても難しかったです。でも経済のことに興味を持つきっかけになりました。

・質疑応答で池上さんに「いい質問ですね～」と言われていたアフリカの情勢をどのように捉えていくべきかという質問で池上さんが「どうしても支援という目でアフリカを見てしまいがちだが、これからは投資という目で見ていくべき」と仰っていたのが印象的です。なるほど、と思いました。

・各国で現在起きている問題などが、どのような経緯で今の状態に至っているかを分かりやすく話して下さったので、とても興味深かったです。世界史を勉強しているため、より理解しやすく、改めて世界史を勉強することの意義を感じました。また、世界史だけでなく、日本史にも興味を持って勉強してみることが、グローバル社会を生きるうえで重要なことだと感じました。

・EU離脱や、トランプ政権のことなどニュースを見ているだけでは分からなかった情報を知ることが出来てタメになった。若者の選挙離れが話題になっていて政治にもっと関心を持たなければいけないと感じた。

・私は選挙に行かないことは良くないことだと漠然と思っていただけでしたが、イギリスのEU離脱問題やトランプ氏当選時の大統領選挙の話を聞いて、「自分が投票したところで変わらない」と考え、行かない人が増えると後悔する結果になってしまうことがよくわかりました。なので、後悔しないためにも選挙には必ず行こうと思いました。そして、出来る限り周りの人にも呼び掛けていこうと思いました。

・これから違う国や地域の人と関わって行く上で大切なことは相手の内面的倫理を理解することだと知りました。相手をリスペクトし、違いを認めあい、話し合うことで民族や宗教の対立問題は少しは解決に向かうのではないかと思います。(そんなに簡単に解決できるとは思いませんが)また、池上さんは自分たちの宗教、歴史、意見や立場をしっかり持つことや偏見を捨てること、実際に行ってみることも大事だとおっしゃっていました。特に偏見を捨てるという話を聞いた時、自分は偏見を持っているかもしれないと感じ、とても反省しました。

・これからの自分の学びや行動、考え方が変わった気がします。身に付けるべき知識や能力を自分のものにできるようにこれからは学んでいこうと思いました。

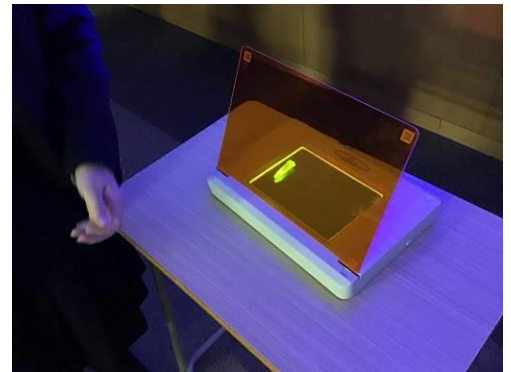
・世界史で習ったことが多く出てきて世界史の理解が深まった。アフリカについての質問をした学生がいて、私はアフリカについては考えてなかったの、視野を広くしようと思った。とても分かりやすかった。

・かなり深く話してくださいました。テレビでたまに見ると、どうしてEUの離脱を行うのか？など疑問に思っていたのですが、そういう根本的な理由も丁寧に説明して下さったので、改めてニュースを見ると、そこからの進展などがよくわかり、より国際問題を考えるようになりました。他の高校生が池上先生に質問している内容

がとても高度で、同じ年とは思えませんでした。またその質問から池上先生自身の考え方を聞くことができたのは貴重な経験でした。

② 2019.12.13 千葉大模擬講義 河合先生(本校卒業生)による実験を含む模擬授業

河合先生は本校の卒業生です。在学中は戸谷先生(現教頭先生)が顧問をしていたソフトボール部(現在廃部)に所属していたそうです。高校卒業後は東京学芸大学に入学され、小学校の先生を目指していたのですが、大学での恩師との出会いから研究に目覚め研究者の道を歩むことになったそうです。助手を務めながら東京大学の大学院で修士・博士課程を終え、現在千葉大工学部共生応用化学科で助教授として勤務されています。子育てをされながら、社会でご活躍されている自立した女性のロールモデルとしてもとても魅力的な方でしたが、とても柔らかい印象の穏やかな方でしたね(笑)。



③ 2019.12.18 東京大学キャンパスツアー 卒業生チューターによるキャンパス案内

本校の卒業生チューターの岡野さん(東京大学経済学部4年生)のご案内で、中学3年生~高校2年生の生徒と、鮫島、須股教諭、大前教諭、田村めぐみ教諭、森山教諭、武田教諭で参加しました。工学部のスペースでは、AIによる自動車運転に関する実験をラジコンカーでやっていたので、馴れ馴れしいかなと思いつつも声を掛けると工学部の学生さん達が実験の内容(リモートで自動車を運転する際にカメラの位置はどこが最適なのか?)を説明して下さいました。限られた時間で岡野さんが要所要所のポイントを丁寧に説明して下さいました。



生徒アンケート

今回の企画に参加してみようと思った理由を書いて下さい。

- ・まだ自分の進路が決まっていないため、母にすすめられて参加しました。
- ・東大に興味があるから。 ・東大志望だから。
- ・色々な大学を見て、これから志望校を決めていく上での選択肢を増やしていきたいと思ったから。
- ・文化祭などではない、普通の日の大学の様子を見たかったから。
- ・東京大学のキャンパス内に入りたい(赤門を見てみたい)と思ったから。
- ・チューターさんのお話を聞いて見たかったから。
- ・また、普段東大に1人で出向いても行けないような所に行けると思ったから。

キャンパスツアーに関して、感じたこと、考えたことなどを自由に書いて下さい。

- ・チューターの方のお話を聞いて、中3の頃からかなり苦手分野を勉強して、計画的に勉強していたのがとても驚きでした。大学受験の厳しさを実感しました。
- ・私もチューターの方までほど勉強できないと思うが、今からできることをし、また定期試験勉強を通して苦手分野を少なくしていきたいです。
- ・定期試験勉強の始める時期などを具体的に教えてくれたのが有難かったです。

- ・チューターさんはガチで勉強してたんだなと、思った。凄いと思った。
- ・どの時期にどんな勉強をしたら良いかを考える上で参考にしたい貴重な話だった。
- ・共立出身の東大の方がわかりやすく教えてください、東大のことがよくわかった。また、その方のお話を聞いて中学・高校とどのような勉強をしてきたのかという貴重なお話を聞くことが出来て良かった。
- ・共立で1番であっても、この大学に入れる保証はない。上位の大学は、ライバルはいなく、自分自身で進めなければならないと思った。
- ・大学は中学や高校などとは全然違い、広くて森みたいだと思った。
- ・やはり東大に行くには血の滲むような努力をしなければならないのだと分かった。
- ・大学に行っても勉強しなくてはいけないと分かり、絶望感を感じた。しかし、普段中々見ることでできない大学の様子を見ることができ、楽しかった。
- ・改めて、自分の勉強では、まだまだ足りないと思いました。また、一人でオープンキャンパスでまわってもわからないことを聞いたので、良かったです。
- ・とても努力して入学させたのが分かり、それに刺激され、自分の勉強の意識が高まった。
- ・早い段階から、志望する大学の情報収集を始める必要がある。たとえば、入試問題を試しに解いて、その大学の問題形式を知ること、受験までにやらなければならないことがみえてくると思う。自分を客観視して、自分の課題を見つけていく力は非常に大切であり、覚えたものや理解したものを忘れないように何度も復習することを怠らない、維持していく必要がある、と痛感した。

④ 2020.1.11 一橋大学キャンパスツアー 卒業生チューターによるキャンパス案内

本校の卒業生チューターの奥村さん（一橋大学経済学部3年生：1年英国留学）のご案内で、中学3年生～高校2年生の生徒と、鮫島、森山教諭、武田教諭で参加しました。キャンパスの伝統的な雰囲気とゴージャスな建物などに感動した生徒も多かったようです。最後は小教室でチューターとの座談会も行うことが出来ました。

生徒アンケート

今回の企画に参加してみようと思った理由を書いて下さい。

- ・色々な大学を見てみたいと思ったから。
- ・一橋大学についてもっと知りたかったから。
- ・元々一橋大学が志望校に入っていたので見学してみたいと思ったから。
- ・他の学校と雰囲気を比べ、自分の行きたい大学を明確にするため
- ・雰囲気や立地などをどんな所なのか実際に自分の目で確かめたかったから。

キャンパスツアーに関して、感じたこと、考えたことなどを自由に書いて下さい。

- ・チューターさんの貴重なお話を聞くことができて、とてもいい経験ができた。
- ・一橋大学は留学に挑戦しやすい環境で、いいなと思った。
- ・建物も綺麗で雰囲気も厳かで、流石一橋大学だなって思った。
- ・学力がもっと必要なのを痛感した。また、自分でやりたいことを見つけたらちゃんと意志を持って行動に移すことが大切だと思った。
- ・こんな機会滅多にないので貴重な1日でした！また、現役大学生の方とLINEを交換して、今後も大学について聞きたいことをなんでも聞けるので嬉しいです。
- ・キャンパスツアーは初めて参加しましたが、案内して下さった卒業生の方がとても気さくで色々なお話を伺えたのが特に良かったです。実際にその学校に入る入らない関係無く、私自身でも今回まで幾つかの大学を見学出来たことで、大学というのがどの様な場であるのかそれぞれの特徴を持って比較出来たし、また今の自分の志望



校をより客観的に見つめ直す機会になったのでとても良い経験ができたと思います。

⑤ 2020.1.15 伊藤忠 CTC ワークショップ(進路決定者対象課外授業)

CTC 未来教育 WG で個人的にお世話になっている伊藤忠 CTC の松元様 (Lighthouse #21) よりご案内頂き、高校3年生の進路決定者25名、本校チューター1名、本校卒業生1名と、鮫島、森山教諭、高梨教諭で参加しました。CTC という IT 企業についての説明を伺い、IT 企業の人材において文理が半々であるという現状とその背景やデザイン思考からアート思考へといった最先端のお話にも触れることが出来ました。またワークショップでは、就活生採用時に実際行われた課題解決型のディスカッションと発表まで体験することが出来ました。松元様も、当日司会をご担当頂いた島田様も、同行した大学生も、(実は私たち教員も) 驚いていましたが、参加者が既に就活生レベルのワークショップをこなせたことに共立生のポテンシャルの高さを再確認するよい機会となりました。やはり、学校内外を問わず、「何でもやってみよう！」という経験が成長に繋がるのだなあと



思います。

(注) なぜ IT 企業に文系や芸術系の人材が求められているのか？

当日島田様 (人事担当) からもお話がありましたが、参加していない生徒には分かりにくいと思うので少し補足します。PC に向かってプログラミングする SE、**というイメージがわく**、**というデータサイエンス系の理系人材が求められるというイメージがわく**と思えますが、実は20年以上前から、文系から SE になる人材は多数いました。最近はこの傾向がより強くなっています。理由は、「営業スタッフが必要だから」といった単純なものではありません。プログラミングといっても一部の専門性の高いものや新しいプラットフォーム創造が求められるような分野を除いて、言語から書くというよりは、「ホームページ作成ソフト」のような優れたツールが充実していること、また昨今では**機能ごとのスペック勝負ではなく商品の目に見えない付加価値が重視されていること**、**更に様々な業界に IT 技術が使われるようになったことで、多種多様な人材が必要になったこと** (当日ご紹介があった「西武線アプリ」は鉄道オタクでない顧客のニーズも分からない) などが背景として挙げられます。CTC でも従来はあまり採用がなかった美大などにも人材を求めるケースも増えているようです。300社を超える企業の技術を組み合わせ、国内外を問わず、またグローバル・ローカルなニーズに対応する CTC だからこそ人材の多様性が必要ということですね。

⑥ 2020.1.21 法政大学模擬講義 人間環境学部 岡松暁子教授 (高校3年生対象)

高校3年生 (進路決定者) を対象に、法政大学の岡松暁子教授の講義を企画しました。「SDGs について学ぶことが、文系理系、専門分野を問わず何故必要なことなのか？」を中心テーマに100分 (50分×2コマ) お話を頂きました。現在でこそ SDGs として「環境問題」がグローバルに話題になりますが、講義ではまず、そこに至るまでの道は決して平坦ではなかったことをご解説頂きました。1962年レイチェル・カーソン「沈黙の春」→1971年環境庁新設→1972年ストックホルム宣言→1980年 UNEP「持続可能な開発」→1987年ブルントラント委員会での報告書「Our Common Future」で取り上げられた「Sustainable Development」(持



続可能な開発)でようやく火が付き、米ソ冷戦の終結を待つようやく国際社会がこうした取り組みに向かっていく流れになったことは、私たちの世代にとってはリアルタイムの出来事ですが、ドンドン歴史になっていくのだなあという感じながらお話を伺っていました。SDGsの17のGoalsがそれぞれバラバラのものではなく、どう繋がっていくのかといったことについて、これから大学で学ぶ学生に考えて貰う貴重な機会を頂けたことに感謝しています。

⑦ 2020.1.24 東工大キャンパスツアー 卒業生チューターによるキャンパス案内

本校チューターの稲葉さん(東工大大学院生)のご案内で、中学3年生～高校2年生までの生徒と鮫島、高梨教諭、三ツ木教諭、松川教諭で参加しました。まさか大学の教授から直接研究室真横の実験室の中でお話を聞けるとは思っていなかったのでびっくりでした。

生徒アンケート ※写真は大内教授の解説。画像の質を落としてあります。

今回の企画に参加してみようと思った理由を書いて下さい。

- ・友だちが誘ってくれた。
- ・東工大はどんな雰囲気为学校か気になっていたから。
- ・家から通える国公立の大学で、少し気になっていたときに、ちょうどキャンパスツアーのお知らせを知ったから。
- ・中3の頃に一橋大学のキャンパスツアーに行ったことがあり、為になることが聞けたので、東工大のキャンパスツアーにも行ってみようと思ったからです。



⑧ 2020.1.25 法政大学模擬講義 人間環境学部 岡松暁子教授 (中学～高2年生対象)

「核兵器のない世界の平和と核兵器による世界の平和 ～ SDGsの実現に向けて」 <ゼミ形式>

1/21(火)に高校3年生の進路決定者の講義をご担当下さった岡松先生の講義を受講させて頂きました。教員3名(鮫島、森山教諭、松ヶ枝教諭)、保護者2名、中3～高2の生徒9名という贅沢な環境で、全員が岡松教授と対話させて頂きました。大学のゼミと全く同じではありませんが、雰囲気は少し分かったのではないのでしょうか?今回は先生からの発信でしたが、ゼミでは学生が発表を担当することも多くあります。中高までの授業でも参加意識、当事者意識は必要不可欠ですが、大学ではそれがゼミそのものと言っても良いかも知れません。



生徒アンケート ※写真は大内教授の解説。画像の質を落としてあります。

今回の企画に参加してみようと思った理由を書いて下さい。

- ・テーマが、2年前に娘と自由研究の為に訪れたJICAでのSDGsの企画をみてから親子で興味があったから。②岡松教授の授業ということでは是非とも参加したかったから。
- ・SDGsに興味があるから。
- ・国際平和や核兵器廃絶について興味があったから。
- ・法律のことに興味があるから。法政大学も志望校に入っているため、どんな教授がいるのか知りたかったから。
- ・法律にはもともと興味がありましたが、国際法というのは聞いた事がなくどういうものなのか知りたかったため、参加しました。
- ・イランとアメリカの緊迫状態がニュースで話題となり、核兵器について興味を持ったから。
- ・自分の学びたいSDGsについて詳しく知りたいと思ったから。

今回の企画に関して、感じたこと、考えたことなどを自由に書いて下さい。

・本来ならSDGsについて興味があった娘に参加させたかったのですが、保護者だけの参加をお許し下さってありがとうございました。岡松教授のゼミ形式の講義はスピード感があって楽しく、多くの生徒さんに是非とも体験してもらって

視野を広げてもらえたら、と感じました。

・核兵器がある平和と核兵器がない平和についてお話を拝聴できてよかった。核兵器のない平和にするために、核兵器で牽制していくという矛盾と一度攻撃したら取り返しがつかないという点で今までの戦争や世界と違うという所が興味深かった。これからの世界は先手を打って行動していかないと、気づいたら完敗していて自らは破滅していた…ということが日常茶飯事になるのだなあと思うと恐ろしい。

・国際平和が訪れる可能性は低いとおもった。核兵器を持つことによって生まれる核抑止力というのが、他国が新たに核兵器を手に入れようとする国の台頭を抑えているのであり、核兵器がたとえなくなったとしても元保有国はまた別の手段で他国を抑えようとする為、核によって抑制されるリサイクルは変わらないと思ったから。

・核兵器は危険だから廃絶すべきだ、と講義を受ける前は思っていました。しかし、講義を聞いて核兵器が戦争を抑制していることが分かり、考えが変わりました。また、教授がおっしゃっていたように核兵器を世界から無くすための第1歩として、持っている国には使わず、持っていない国には持たせない核不拡散から始めるという考えはとても納得が出来ました。しかし、教授もおっしゃっていましたが、1つの意見で納得するのではなく、他の人の考えも知った上で自分の考えを持つことが大切だと学んだので、本などを積極的に読もうと思いました。

・私は、今まで核兵器は絶対に無くなるべきだと考えていたが、今回の講義を聞き、核兵器があることによって保たれている平和があるのだと知り、一概に核兵器廃絶を訴えることは出来ないと思った。核兵器を拡散しないことは大事だと思うが、五か国だけが核兵器を持つことは、格差を広げるものでもあると思った。途上国は貧困が故に自国の権威を示すために核兵器を持とうとし、核兵器を持つ故に貧困になっていくという悪循環に陥りかねない。従って、私は核兵器を拡散させないようにするために、まずは途上国の発展に全力を挙げるべきだと思う。

・核兵器についてはほぼ無知であった自分にとってとても衝撃的な内容であり、深く学ぶことが出来た講義だった。この講義を聞いて、私は核兵器は持っていきたいか持たないか判断することはまだ出来ない。核兵器について浅い知識でありながらもその判断を下すのは違うと思うからだ。核兵器を持つべきか、持たないべきかは自分が核兵器について色々な知識や色々な人の意見を取り入れた上で判断を下すべきだと思う。この講義の中で一番驚いたことは核兵器禁止条約に日本が入っていない事だ。世界で唯一の被爆国である日本が入っていない理由が日本だけ入っていても意味が無いというものであり、そんな無念ことがあるのかと思った。核兵器を持っている国が強すぎるから入っても無意味であるのなら核兵器はもたないようにするべきだと思うが、一方で核兵器を持たないことで各国のお金は貯まり、国々で戦争が起こってしまうのではとも思う。今後の日本は核兵器を超えるものは何か、核兵器は無くすべきなのかを日本中の一人一人の人が考えていかなければならないようにであり、核兵器が使われた国を最後の国を日本だけにする。核兵器による平和、核兵器のない平和を目指していくべきだと思う。

